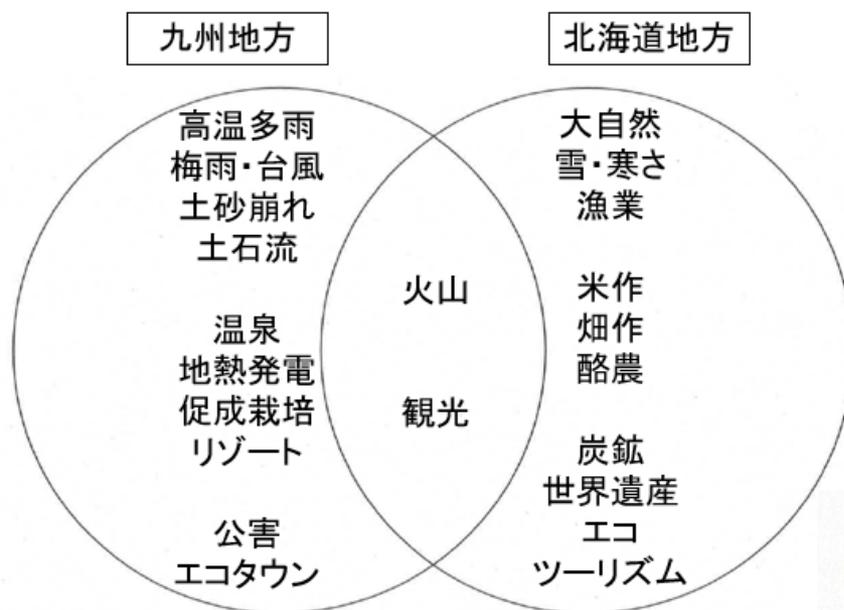


<アイデア>

地理的分野「C(3)ア(7)(イ)」(日本の諸地域「北海道地方」)
九州地方と北海道地方の学習で得た知識を活用して、**二つの地方の地域的特色の違いと共通点を表現するためのアイデア**

【学習問題】

九州地方と北海道地方には、どのような違いと共通点があるのでしょうか。



※本アイデアは、令和2年度総合教育センター研修員B先生の実践を基に、再構成したものです。

本単元に関する学習指導要領の内容

地理的分野「C(3)ア(7)(イ)」(日本の諸地域「北海道地方」)

C 日本の様々な地域

(3) 日本の諸地域

次の①から⑤までの考察の仕方を基にして、空間的相互依存作用や地域などに着目して、主題を設けて課題を追究したり解決したりする活動を通して、以下のア及びイの事項を身に付けることができるよう指導する。

- ① 自然環境を中核とした考察の仕方
- ② 人口や都市・村落を中核とした考察の仕方
- ③ 産業を中核とした考察の仕方
- ④ 交通や通信を中核とした考察の仕方
- ⑤ その他の事象を中核とした考察の仕方

ア 次のような知識を身に付けること。

- (7) 幾つかに区分した日本のそれぞれの地域について、その地域的特色や地域の課題を理解すること。
- (イ) ①から⑤までの考察の仕方に取り上げた特色ある事象と、それに関連する他の事象や、そこで生ずる課題を理解すること。

イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

- (7) 日本の諸地域において、それぞれ①から⑤までで扱う中核となる事象の成立条件を、地域の広がりや地域内の結び付き、人々の対応などに着目して、他の事象やそこで生ずる課題と有機的に関連付けて多面的・多角的に考察し、表現すること。

＜本アイディアのポイント＞

- ・日本の諸地域の学習では、同じ「考察の仕方」で追究した二つの地域のまとめは似てしまいがちです。そこで、二つの地域の学習を終えた段階で、再度ベン図を使用して、相違点と共通点を明確にするためのアイディアです。

学習後に、ベン図を使用し、相違点について改めて捉え直すことで、地域の特質を強く意識付けることが期待できます。

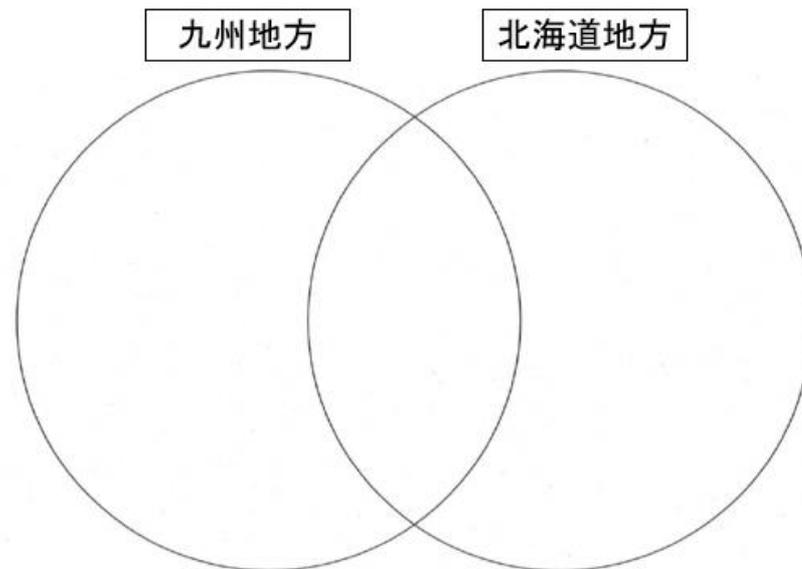


【展開例】

- ①九州地方と北海道地方の地域的特色について、個人でベン図に整理する。
- ②学級で話し合う。
- ③個人で考えをまとめる。

展開② 学習問題を設定する。

北海道地方の学習を終えて、九州地方との違いと共通点について、ベン図を用いて整理し直してみましよう。



【学習問題】

九州地方と北海道地方には、どのような違いと共通点があるのでしょうか

展開③ 個人でベン図にまとめる。

九州地方

北海道地方

高温多雨
梅雨・台風
土砂崩れ
土石流

温泉
地熱発電
促成栽培
リゾート

公害
エコタウン

火山

観光

大自然
雪・寒さ
漁業

米作
畑作
酪農

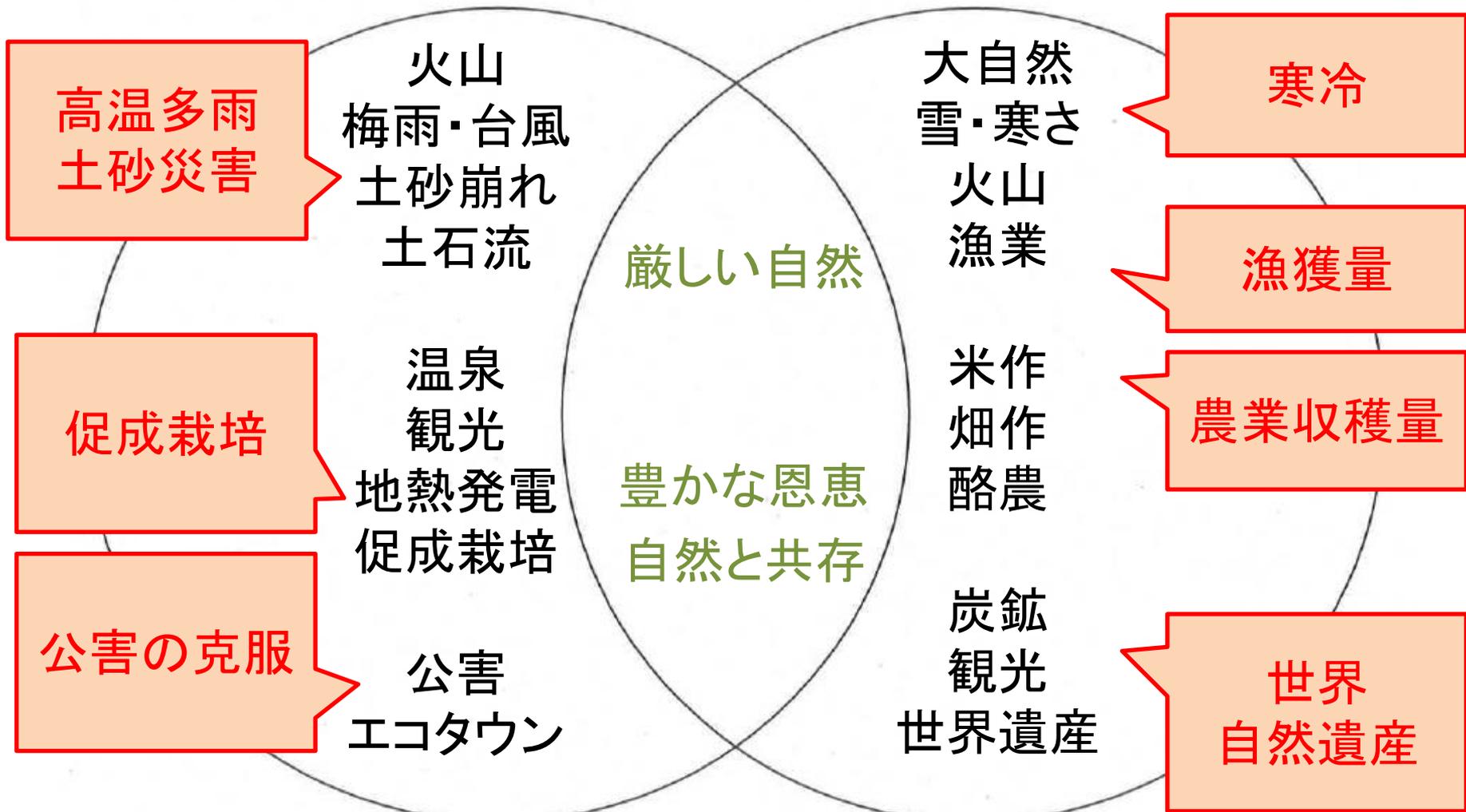
炭鉱
世界遺産
エコ
ツーリズム



展開④ 学級で話し合う。

九州地方

北海道地方



展開⑤ 個人で考えをまとめる。

九州地方（違い）

高温多雨
土砂災害
促成栽培
公害の克服

（共通点）

厳しい自然
豊かな恩恵
自然と共存

北海道地方（違い）

寒冷
漁獲量
農業収穫量
世界自然遺産

【まとめ（例）】

九州地方は高温多雨で、土砂災害に見舞われたり、暖かい気候を利用した促成栽培が盛んで、公害を克服してきた歴史があるのに対して、北海道地方は、寒冷で、漁獲量や農業収穫量に恵まれ、世界自然遺産を活用して観光に生かしているところなどが違っている。しかし、この二つの地方では、厳しい自然から豊かな恩恵を受けながら自然と共存しているところが共通している。

受講者の感想

- ・九州地方との違いをはっきりさせるために、ベン図がとても分かりやすかった。違いにばかり目が向きがちだが、ベン図によって共通点がクローズアップされたと思う。
- ・同じ自然をテーマにしながらも、全く同じ進め方ではなく、むしろ九州と北海道を比較し、共通点を見つけるところが面白い。
- ・九州地方と比較した後でベン図の活用をすることで、よりそれぞれの地方の特色がハッキリした。考えを視覚的に整理することの気付きは、大きいと思った。
- ・マトリックスからベン図を使い、より深い学びへと導くことで、北海道地方の特色を理解させるのはとてもよいアイデアだと感じた。共通点をどうまとめるか、九州地方と比較しながら、考えさせることにより、より深まるのだと感じた。